



遠隔操作ロボット「アバター」を活用する動きがさまざまな分野で本格化しています。姫島村では、姫島小と姫島中の児童生徒がアバターを使い、東京国立博物館（東京都）を見学する授業がありました。

姫島に居たまま東京国立博物館見学 村が授業にICT（情報通信技術）積極活用

2020年5月22日付大分合同新聞
GXPRESS ビジネス2面

遠隔操作技術を生かしたアバター開発の動きは、さまざまな分野で本格化している。姫島村では2月、姫島小と姫島中でアバターを使い、東京国立博物館（東京都）を見学する授業をした。

館内を自由に“周遊”

ICT（情報通信技術）の活用から人口減少など地域課題の解決を目指す、村の「ITアイランド構想」の一環。ANAホールディングスが開発したアバターを、博物館と学校にそれぞれ設置した。県内から実際に博物館に行くならば1日かかるが、アバターを使えば距離、時間の制約がある程度軽減される。

学校では児童と生徒がパソコンで博物館のアバターを動かして、館内を自由に“周遊”。

クリーン越しに展示品を見学し、学芸員から説明も受けた。博物館からは学芸員が、教室にあるアバターを操作。事前に村に配達しておいた国宝の屏風（複製）について、アバターを動かしながら歴史や特徴などを解説した。

海を挟んで英語教育

姫島小では昨年11月、英語の授業でもアバターを使った。県庁にいるALT（外国語指導助手）と6年生の児童11人が、アバターを通してコミュニケーション。互いに英語で自己紹介したり、児童がスライドやパネルを使ってALTに村の魅力をアピールした。

村では月1回、対岸の国東市からALTが来て英語の授業をしている。アバターを使うこと

で遠隔授業が盛んになれば、児童が生英語に触れる機会の増加につながることも考えられる。

村教委は「児童や生徒は興味

深そうに授業を受けていた」と効果に手応え。「新たな知見を得る機会も増える。今後もICTを活用した授業を積極的に実施したい」と話した。



姫島小・中学校では2月、アバターを使って東京国立博物館の展示物を鑑賞する授業を実施した

① 博物館見学にあバターを使うメリットは何ですか？

.....

.....

② 児童生徒は博物館を自由に“周遊”しましたが、博物館の学芸員はアバターを使ってどんなことをしましたか？

.....

.....

③ 姫島小で行われた英語の授業で、児童とALT（外国語指導助手）はアバターを使ってどんなことをしましたか？ 二つ挙げてください。

.....

.....

④ 将来、アバターはどんな場面で活躍すると思いますか？ 話し合ってみましょう。

.....

.....